

スズメバチから身を守ろう

夏が過ぎた9月から11月中ごろまで小学校児童や幼稚園児が遠足の時期と重なり山野でスズメバチの被害に会ったという報道を耳にする。山歩きをするハイカーも対応を覚えておく必要がある。



スズメバチ

● スズメバチはどんなハチ

スズメバチ科にはスズメバチ(7種)、ヤミスズメバチ、クロスズメバチ(5種)、ホホナガスズメバチ(4種)の4属があり、日本には上の16種がいる。

その中でも野山で良く出会うのは、大型で獰猛なオオスズメバチ、キイロスズメバチで刺激を受けると集団で敵を攻撃する。

ただ、大きい蜂でも胴が丸く黒いのはマルハナバチで花の蜜を吸うので刺さない。

● 生活は

中心の女王蜂は一人、前年から朽木などの中で冬眠越冬し、春に冬眠から覚めてから、働き蜂が生まれるまでは一匹で営巣を始め産卵する。孵化した幼虫は7月頃から羽化し9月から10月にかけて最大数百匹の集団を作る。性は前年での受精卵はメス蜂の働き蜂に、今年できる未受精卵はオス蜂になる。9~10月になるとオス蜂が出来、来年の女王蜂はそれまでに栄養豊富な幼虫から選ばれ10月~11月に羽化する。



木洞の中の巣

その後も栄養を蓄え、晩秋の繁殖期になると若い女王蜂となって巣から飛び立ち、オス蜂も後を追って交尾する。

その後働き蜂、オス蜂とも死滅する。刺すのは雌蜂のみである。

交尾した若い女王蜂は生き残り朽木などの潜み、来年まで越冬する。

● 刺されないためには

- ・ 巣、やクヌギで採餌しているときなどは、10m以内に近づかない。
(軒下の巣の蜂や、野外の巣の蜂は刺激、挑発されない限りすぐに攻撃はしない)
- ・ 刺激を感じると顎を「カチカチ」と鳴らす事がある。(静かにして低い姿勢で遠ざかる)
- ・ 香水の匂い、黒い服装、果物の露出、野外料理時のビール、清涼飲料水など飲み物の空き缶放置などは避ける。
ただし、黒い服装以外が完全に安全とは云えない。視覚による認識の為に夜間は白地でも攻撃するとも言われ、光るものに刺激されるという話もある。
他の情報として、蜂蜜を食べている人の被災率が高いとも云われる。
(樹液の臭気、果物、蜂蜜の匂いやペンタノールの匂いなどに敏感)
- ・ 個体の偵察の蜂に会ったら、騒がず、手で払ったりせず、静かに止まり、遠のくの待つ。
- ・ 1回刺激させると、執拗に10m以上の遠くまで追いかけてくる。
- ・ はちが刺すときは人に止まって後、体を安定させてから、腹をまげて刺すので、その短い時間に落ち着いて払ひ落とせば逃げられるという話があるが、本人では無理であろう。
- ・ 営巣には朽木の肌、スギ、ヒノキの皮などをかじり、口の粘液で固めて作るので、その木の付近も危険である。
(庭のヒノキに蜂が何回も飛来し、かじった為木の皮が裸になった例もある)

● 刺されたら

- ・ 大騒ぎせず、大きな身振りをせずに周囲の同僚に知らせながらその場から離れる。
(他の蜂を誘発させないため、同じ蜂に何度も刺されないため) (ミツバチと違い何回でも刺す)
- ・ 水があるときは傷口を水で洗い、つまんだり、吸引器で毒を吸いだす。
(早く毒を出す。このとき口では吸わないこと。歯の炎症などで体内に毒が入る)
- ・ あればタンニンを含む茶で洗う。またヒスタミン軟膏、ステロイド軟膏を塗る。アンモニアは無効。
- ・ 出来るだけ早く病院にゆく。 前回は刺された経験があれば告げる、アナフィラキシーショックを起こすので。

● 毒の成分は

- ・ 炎症を起こすヒスタミン。
- ・ 神経毒素成分
- ・ 蛋白質:細胞膜を分解する酵素。急性アレルギー反応(アナフィラキシーショック)の原因物質。 など